

2022 年度(令和4年度)学校評価自己評価表

駅家中学校区	校番 82	福山市立駅家北小学校
最終更新日		2023年(令和5年)2月1日

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	<中学校> 思考力 コミュニケーション力・協調性 意志決定力・志 <小学校> 課題発見・解決力 コミュニケーション力 挑戦する力
OICT を使いこなせないと社会についていけない時代になっている。情報モラルを学習しながら行っている。リアル&デジタル それぞれを使い分ける中で、学びを高めたい。	O「自分の良さは周りの人から認められている」が年々向上している。 O意欲的に授業に取る組む児童・生徒は多いが、自分の考えを持ち、子ども同士が関わり合いながら考えを深めることに課題がある。	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	O日常生活の中に課題を見つけ出し、自分の知識を総動員して答えを導き出す。 O他者との関係を協調的に築きながら、自分の考えを発信し、仲間と課題解決する。 O自分の人生を切り開き豊かな未来を創ろうと見通しや展望を持ち自己決定する。 O「主体的な学びによる思考力・判断力・表現力の育成」を研究テーマとする。 ・学力調査の分析から課題をつかみ具体的な手立てを研究し、授業改善を進める。 ・各種アンケート等による結果から、個別最適化を図り、子どもに「自己決定」の場を多く与える。
		中学校区として統一した取組等	

III 自校

ミッション 地域や保護者の信頼に応え、地域住民から愛される学校を地域と共に創造する	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	課題発見・解決力	コミュニケーション力	挑戦する力
学校教育目標 主体的に学び 仲間と共に 伸びゆく子どもの育成	めざす子ども像	低学年 O身近な問題に対して疑問を持ち、自分なりに導き出した答えを表現・実行する力	O自分の役割に責任を持つ力 O自分の考えを伝える力	O学級・学年や家族の一員であることを自覚し、主体的に学ぶ力
現状 <児童生徒> O既習事項を常に想起させたり、自分の経験と重ねて発言したりすることにより、「授業で考えることが楽しい」と感じる児童が増えている。 O学力の伸びを把握する調査(5,6年)において、5→6年算数以外は、いずれも市平均の伸びを上回った。全国学力・学習状況調査も市平均を国語+9ポイント、算数+6ポイント上回った。 <授業> O児童の疑問を引き出すための教材研究を行い、子どもの思考にそった授業展開(発問・指示等)を深めている。 O思考ツールの活用やペア学習を通して、児童の主体的・対話的で深い学びを実現しようとしている。	中学校 O地域や社会の問題に対して、持っている知識を関連付けて考え、自分なりに導き出した答えを表現・実行する力	O様々な問題に対して、持っている知識や経験等をフル活用して考え、自分なりに導き出した答えを表現・実行する力	O自分の役割や言動に責任を持ったり、助け合ったりする力 O自分の考えを伝え、相手の考えを比較しながら聞く力	O学校や地域の一員であることを自覚し、主体的に学んだり難しいことにもチャレンジしたりする力
	研究 テーマ 内容等	「主体的な学びによる思考力・判断力・表現力の育成」 ~子どもが知的好奇心・意欲をもち、課題に向かって対話的に学び合う授業の創造~ 学びに向かう基盤である知的好奇心を高める教材研究		
	めざす授業の姿	O持っている知識を関連付けたり自分で方法を判断・決定したりして主体的に学び合う授業 O児童同士の協働や対話により、自分の考えを広げたり深めたりして対話的に学び合う授業		

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立駅家北小学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る 取組状況	70以上 達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状 況	70以上 達成 評価	総合 評価	改善方策		
4	確かな学力 基礎的・基本的な学力の定着を図るとともに、主体的で対話的な学びを通して、思考力・判断力・表現力の育成	★	継続	児童が自分の考えを持ち、仲間と対話する中で学び合う授業にする。	自分の考えをもち、子ども同士の発言の関わりを深めながら、学び合える授業を行う。研修等を通して課題の共有を校内で行う。	「授業が分かり、考えることが楽しい」児童肯定的回答前年度(86%)以上 「課題の解決に向けて自分で考え自分から取り組んでいる」児童肯定的回答前年度(84%)以上	「授業が分かり、考えることが楽しい」と考える児童の割合は89%、「課題の解決に向けて自分で考え自分から取り組んでいる」と考える児童の割合は88%である。学テや調査の結果から、学力の定着は図れているが、自分の考えを伝えることや友だちと話し合い、考えを深め広げること課題が見られる。	4	4	「自ら発表すること」の趣意説明を行い、発表の場を作り、発表した子を励ますとともに指名方法を考えたり、反応の仕方を話し合ったりして、発表できる雰囲気を作っていく。模擬授業形式での研修や事前検討会を行い、お互いの授業を見合う機会を設けていく。	「授業が分かり、考えることが楽しい」と考える児童の割合は86%、「課題の解決に向けて自分で考え自分から取り組んでいる」と考える児童の割合は90%である。放課後に、定期的に授業提案や教材研究の方法を紹介するなどの自主研修の場を設定し、授業改善を行ってきた。 【達成率100%】 【達成率107%】	4	4	5	目標の達成状況から、授業内容が難しくなってきたはいるが、自分で考えることが楽しいと感じている児童の割合は増えていることがわかる。引き続き、発表できる雰囲気を作っていくとともに、学年や全校での研修及び、教材研究を行う。
4	豊かな心 児童一人ひとりの自己肯定感を高め、意欲的に活動できる集団づくり	★	継続	自分が他者や集団のためになり、認められていると感じるなどの体験を多く仕組み、自己肯定感を高める。	学校行事、学級活動、縦割り班活動等を通して、肯定的に評価する場面を増やし、自己肯定感を高める。(担任外の教員からの評価も児童に伝える。)	「自分の良さは周りから認められている」児童肯定的回答前年度(85%)以上	「自分の良さは周りから認められている」児童肯定的回答87%。帰りの会の時間が足りず、1日の振り返りと良さを認め合う時間が取りにくかった。道徳や学活の時間を活用して、友達の良さを伝え合う活動を行った。	3	4	帰りの会の時間を確保し、各学級で1日の振り返りと良さを認め合う場を設定する。運動会や音楽発表会等の行事では、学年間でよさを伝え合う。	「自分の良さは周りから認められている」児童肯定的回答87%。運動会や音楽発表会等の行事では、学年間でよさを伝え合うことができた。 【達成率102%】	3	4	5	帰りの会等を活用し、学級の中で認め合う場を設定する。行事等を通して、肯定的に評価する場面を増やす。委員会活動などを通して、担任外の教員からの評価を積極的に児童に伝える。

4	健やかな体 基本的な生活習慣の定着と体力向上の推進	見直し	基本的な生活習慣を身に付けさせるとともに、運動することの楽しさを感じさせながら体力向上を図る。	持久力を高めるために、体育授業のはじめに体力づくりにつながる活動を行っていく。運動する機会を増やすために、スポーツウィークの取組を積極的に行う。	「自分は進んで体力づくりを行っている」児童肯定的回答82%。 新体カテストの結果を受け、体育授業のはじめに取り組む運動を体育委員会より紹介し、各学級で行った。	3	4	マラソン大会やなわとび大会に向けて、スポーツウィークを設定して運動に取り組む。晴れているときは1日1回外遊びをすることを基本として声をかける。	「自分は進んで体力づくりを行っている」児童肯定的回答82%。 マラソン大会等に向けて、スポーツウィークを設定し運動に取り組ませた。晴れの日には1日1回外遊びをするよう声をかけた。 【達成率103%】	3	4	5	新体カテストの結果を受け、柔軟性を高める運動を授業等を中心に、継続的に取り入れる。運動する機会を増やすために、スポーツウィークの取組を積極的に行う。
2	信頼される学校 保護者・地域に開かれた学校づくりの推進	継続	学校の様子を保護者・地域に積極的に発信し、理解を得る。	学校だより、ホームページ、学校行事についての掲示、メール配信、タブレット(グループ)等を通してタイムリーに情報を発信する。	「駅家北小学校に通わせてよかった」保護者肯定的回答90%以上	4	4	児童間でのトラブルに対して迅速に対応できるよう心掛けると同時に、保護者と普段から学習面を含めた連携を行う。	「駅家北小学校に通わせてよかった」保護者肯定的回答96% 保護者が必要とすると思われる情報は、丁寧に伝えることを心掛けた。 【達成率107%】	4	4	5	担任(学校)と保護者との連携を深め、児童同士のトラブルだけでなく、児童の成長等も保護者に伝える。
4	教職員の元気 仕事に意義ややりがいを感じる働き方改革の推進	見直し	教育活動や内容の見直しを随時行う。	ICTの活用を通して、事務処理の効率化を図ると同時に、教育課程の編成や行事の在り方を工夫し、教職員が働きやすい職場にする。	仕事に意義とやりがい(意欲)を感じる教職員前年度(93%)以上	4	5	引き続き業務改善を中心とした働き方改革を色々な角度から見直す。	仕事に意義とやりがい(意欲)を感じる教職員94.1% 業務の見通しを明確にすることやSSSへの依頼を計画的にし、時間を生み出した。 【達成率101%】	4	4	5	分掌や行事等の教育活動を振り返り、適切な業務量と教職員一人一人が責任を持って業務に向き合えるように、組織のマネジメントを行う。

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]	
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。